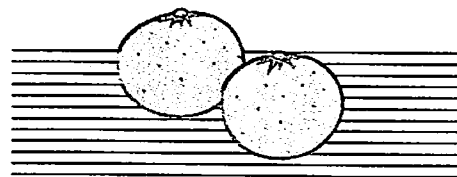
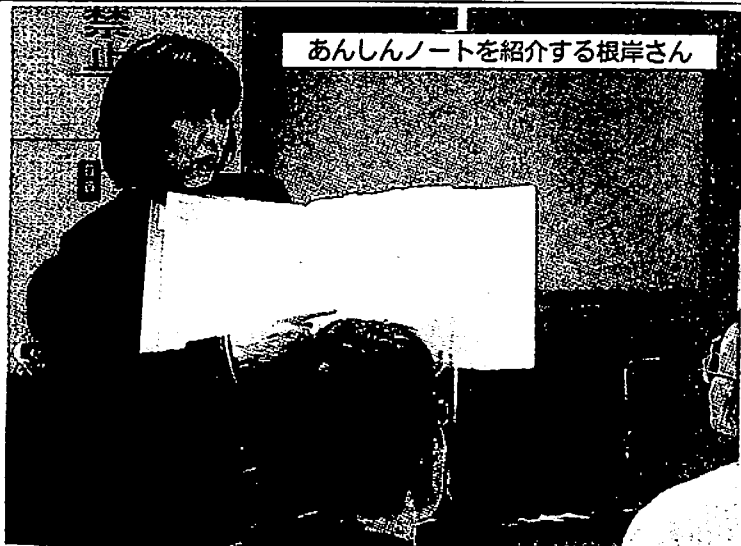


・海南・紀美野



障害のある子どもへ 親からの引き継ぎ書

障害がある子どもの親が他界した際の生活を考えるトークセッションが3月30日、紀の川市粉河の粉河ふるさとセンターで開かれ、障害者支援を行っている横浜市在住の講師2人が親から子どもへの引き継ぎ書「あんしんノート」を紹介した。参加した60人のうち6割ほどが当事者の家族で、「このよつなものを待っていた」など、反響があった。



あんしんノートを紹介する根岸さん

「あんしんノート」紹介

あんしんノートは、重度の障害がある長男を育てる横浜市在住の根岸満恵さんらが、自分の死後のことを考えて2年前に作ったもの。いつでも資料を足せるようにとリングフアイル形式のノートに、「何の薬を飲んでいるか」「障害者手帳」「障害者年金の金額」「健康状態」などの情報がまとめられている。

考案した根岸さんら

参加した長男(43)に精神障害があるという紀の川市貫志川町前田の女性(70)は「息子のことが心配なので安心ノートを少しずつ記入していきたい」と話していた。

とめられている。

トークセッションで根岸さんは「病院での診察の際や、自分で長男の現状を確認する際に重宝している」と説明した。また根岸さんと共にノートの普及活動を続けるNPO法人「よこはま成年後見つばさ」の須田幸隆理事長は、「現在はこのノートを誰に預けるかが課題。今後地域で議論し解決しなければならぬ」と述べた。またこの日は、あらかじめ必要項目をプリントした那賀地区版のあんしんノートが参加者に配られた。

18日までの掲載予定

「は若出と紀の川の両市」問い合わせは同団体「愛ラブアップいわで」

ん(手前は優勝者ら)



小中高の21人 ゴルフ北RC杯ジュニア

119なが

平成23年度 防災ひとづくり事業入賞作品

秀作

助け合い
中央小学校 金川
防火・防災・救急ボ

ク長野トタアホ